

真澄 (ますみ)

富士川第二小中一貫校 松野学園

中学部 学校だより

目指す子供像「夢を語れる子」

学校教育目標「自ら学び ともにみがき合う」

重点目標「やってみよう！」

令和5年10月18日 No.4

「やってみよう」を共有できた始業式 令和5年度後期がスタート

10月10日（火）令和5年度の後期がスタートしました。始業式の会場である体育館2階に入場してきた子供たちの表情、そして歩き方から、自分の目標に向かって気持ちを新たに臨もうとする意欲と、成果を出することができるだろうか、という不安から生まれる緊張感も見えました。

代表として9年生の坂田壮佑さんが後期に向けての意気込みを話しました。坂田さんは、自身の経験を盛り込みながら、全員の心の中にある意欲と不安を見事に代弁するだけでなく、不安な気持ちを挑戦しようとする力に変える言葉で全体の士気を高めていました。

「このままでいいのか」「何か大きく自分を変えたい」「誰もが悔いのないと思える最強で最高の思い出をみんなで創り上げていきたい」

こうした力強く光る言葉と坂田さんの堂々とした姿が、本校の重点目標「やってみよう」の精神をもう一度、子供たちだけでなく私たち教職員も含めた全体で共有する場にしてくれました。

卒業・進級まで残り半年です。しかし、気持ちと行動次第で急成長する可能性をたくさん秘めているのが後期の半年です。職員一同全力で子供たちを支えます。保護者の皆様・地域の皆様の変わらぬご支援よろしく願いいたします。



人から学び自分を高める

本校の子供たちの良さはたくさんあります。その中で、今年度特に感じるのが、「人との出会いが自分の成長につながる」ということに子供たちが気づき、「様々な人から学びたい」という意欲が高まっていることです。学んだことを日常生活の中で生かしている姿も、随所に見られます。

夏季休業明けから今までの約2か月の期間、人から学ぶ場がたくさんありました。8・9年生は、新しい理念のもと、今年度開校した徳島県の神山まると高等

専門学校の生徒さんや、それぞれ自分で決めた進路で誠実に学んでいる静岡大学の現役の大学生の皆さんからお話を聞いたり、交流したりする機会がありました。

「正解のない問いに対して、独自の解を出す」

「周りの人と比べるのではなく、過去の自分と比べる」

「自分を分析する」

「やらずに後悔するより、やって後悔する」など、子供たちが迷ったとき、悩んだときに、一歩を踏み出す勇気を与えてくれる学びをたくさんいただきました。本校の子供たちの素晴らしさは、その言葉を聞いただけではなく、自分の物にしていることです。日々の会話や、作文の中に、今回の出会いで得た学びの成果が表れている場面を何回も見ることが出来ました。

7年生は、校内の縦のつながりを自ら求めて、低学年の学習支援を進めることが出来ました。校内、特に新校舎2階では、低学年の子供



たちが、7年生を慕って集まっている姿が多く見られます。異学年交流を更に進める児童生徒会活動でも、7年生の今まで以上の活躍を期待しています。

7、8、9、どの学年も、人から学び、学んだことを活かすことができる本校の子供たちの今後の更なる成長が楽しみです。



後期児童生徒会がいよいよ動き出します

10月11日（水）体育館2階で、後期児童生徒会任命式を行いました。後期児童生徒会長、専門委員長、学級委員それぞれに任命書が手渡されました。いよいよ後期



児童生徒会が動き出します。会長の箱山昊哉さんは、各委員会の委員長8名に任命書を渡した後、全校児童生徒に向かって決意を述べました。全校児童生徒一人一人の協力のもと、笑顔あふれる学校にしたいという力強い言葉に心が動かされました。20日には、児童生徒総会が開催されます。具体的な活動が始まるのが楽しみです。